

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月14日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>ア 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>ウ 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <p>オ 教職員の配置・研修に関すること</p>
調査研究のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1 広報活動の充実を図るための広報紙の内容の検討と設置場所等の検討を行い、より多くの入学対象者に夜間学級の教育内容を知らせる。 2 不登校の生徒の実態を把握し、夜間学級への入学が適切だと思われる生徒の傾向等を知る。 3 不登校を経験した生徒の実態と学力を適切に把握し、個々に合わせた指導計画を作成する。 4 入学相談及び事前テスト等により、入学生徒の状況を正しく把握するための方法や内容を検討し、修学年限や学年を適切に決定する。 5 外国籍生徒の増加に伴い、効果的な指導を行うための、通訳等の外部指導員の効率的な配置を探る。 6 日本語教材等の指導書、指導マニュアル等を作成し、効果的な授業を展開するとともに、夜間学級未経験教員の授業力の向上を図る。
調査研究の成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 公報の内容を検討し、夜間学級の教育内容がより分かりやすいものに改訂し、パンフレット（A3版2つ折り）、リーフレット（A4版3つ折り）をカラー印刷で作成した。 夜間中学在校生の意識調査より、中学校への広報が大切であることが判明したため、足立区内中学校34校すべてに訪問し、広報活動を行い、区内関係機関、関係団体、駅などにパンフレットを設置し、授業公開週間には20名以上の方が来校した。 2・3 区内34校での不登校の生徒に関する聞き取り調査や、本校卒業生、在学の不登校の生徒に関する調査により、大きな集団には馴染めず、大人の愛情に飢えている不登校の生徒像を掴むことができた。 不登校の生徒は、国籍が違ったり、年の離れた年配者らと

同じ教室で学ぶことで安心感を覚え、落ち着いて学校生活を送ることが出来ているが、外国籍の生徒や年配者より学習進度が速いという側面がある。

そこで、不登校を経験した生徒だけを集め、理科や社会の一斉授業を行うことは可能であるため、一学級で、特別な教育課程で学習させることが効果的であると考えた。

- 4 入学相談の仕方をマニュアル化し、複数で行うこととし入学者の状況把握の精度を上げた。

入学時のテストを検討、改訂し生徒の現在の学力（日本語力を含む）を確実に把握し、生徒がスムーズに学校生活を送れるようにした。

- 5 入学式・卒業式などの儀式的行事やその他の行事、健康診断や入学相談、教育相談週間などに中国語・タガログ語・ネパール語の通訳を配置し教育効果を高めた。

- 6 自校作成の日本語教科書の指導書作成に着手したことにより、教員個人の授業力向上に効果があっただけでなく、教員の異動等で日本語指導未経験者が着任した場合でも、授業に支障なく対応できるだけの基礎が出来た。